

中野区動物マップ

寺社縁起、祭礼の獅子、徳川将軍家の政策などにまつわる動物スポット。北西部の上鷺宮・鷺宮・白鷺は鎮守の八幡神社に白鷺が棲みついたことが地名の由来。

1 江古田獅子舞



江古田氷川神社

一人立ち三匹獅子舞。祭礼行列に四神が加わる。

2 徳川将軍御膳所



東福寺

鷹狩で8代将軍徳川吉宗らが御膳所(休憩所)として利用した。

3 狸灯



哲学堂公園

狸の腹部は灯篭を仕込める作り。

4 撫で牛



新井天神北野神社

牛は天神の使い。身体の不調と同じ部分を撫でると治ると言われている。

5 獅子寺



保善寺

3代将軍徳川家光から獅子に似た犬を賜ったことに由来。

6 たつ寺



宗清寺

山門の内側に木彫りの龍がある。

8 犬屋敷



中野区役所周辺

5代将軍徳川綱吉が「生類憐みの令」で設けた野犬保護施設。

9 象小屋の跡



朝日が丘公園

江戸時代中頃にベトナムからやってきた象が飼われていた。

7 さる寺



松源寺

住職に助けられたこざるが恩返しをした話に基づく。



フクロウは知恵や学問の象徴、夜に狩りをするため不吉なイメージもある。「福来朗(福が朗らかに来る)」「福老(幸せに老いる)」「不苦勞(苦勞しない)」などの語呂合わせから吉兆の鳥とされる。



企画展
あつあつ動物!
2024年
6月18日(水) → 8月11日(日)祝



フクロウ：夜目がきき、人間の10~100倍もの視力があるといわれる。
ミミズク：聴力にすぐれ、「羽角」という羽根の束が頭にある。
ズクはフクロウの古名「ツク」で「耳のあるフクロウ」の意味。

郷土玩具に見る動物

郷土玩具は木、土、紙、藁、布などたやすく入手できる土地ごとの特産物を利用し作られてきた。子どもむけに人形や玩具が広まったのは江戸時代以降で、おもちゃとして作られたものだけでなく、魔よけや成長、招福祈願がこめられた。幕末以降はよりデフォルメ化されたかわいらしいデザインも増えた。



チャグチャグ馬コ | 01



岩手県盛岡市

農耕馬に感謝する祭礼「チャグチャグ馬コ」で盛装した馬の首につく鈴の音が玩具名の由来。

赤みみずく | 02



ほうそうよ
疱瘡除け、魔よけの赤色を塗り室内に飾る。大きな目は疱瘡による失明を避けると考えられた。

米喰いねずみ | 03



石川県金沢市

竹のバネを押すとネズミの頭と尾が下がり、台の上の米を食べるからくり仕掛け。

初辰の猫 | 10



大阪府大阪市住吉区

住吉大社末社の授与品で商売繁盛の縁起物。四十八体そろると「始終発達」になり大願成就する。

うそ | 11



福岡県太宰府市

うそは鴛という鳥名で、太宰府天満宮の「うそ替え神事」の授与品。カールした削りかけ部分が特徴。

ピンピン鯛 | 12



滋賀県草津市

中に車がついた長方形の木箱に鯛が乗る。箱を動かすと箱の中の針金がピンピンと音をたてる。

馬乗りきつね | 04



愛知県名古屋市

名古屋張子。紙細工と張子の技法をあわせた細工物。現在ではほとんど廃絶した。

鳩車 | 05



長野県下高井郡野沢温泉村

あけび蔓を野沢温泉のおがま高温の源泉にひたし、表皮をはいで編んだもの。

木の葉猿 | 06



熊本県玉名郡

このは木葉山に伝わる伝説をもとに作られた手びねりの猿。白・赤・青の斑点模様は魔よけを意味するとされる。

山崎の猪 | 13



京都府乙訓郡

この地方を舞台とした歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」五段目に登場する猪にあやかり作られた。

下川原焼きの人形笛 | 14



青森県弘前市

70種類ほどあり、黄色と紫を基調とする色彩が特徴。この土笛は子どもが土をなめると虫封じになるとされた。

象 | 15



沖縄県

沖縄の壺屋焼に、明治期に本土からエジプト模様ともよばれるエキゾチックな色彩や模様がもたらされた。

オットギ 兀然童の虎 | 07



朝鮮

兀然童とは朝鮮の起き上がり小法師のこと。

わに 鱧 | 08



上海

上海は長江(揚子江)の河口。ヨウスコウワニが揚子江下流域にすむ。

ずぼんぼ | 09



東京都台東区浅草

下から団扇であおぐと獅子が戯れているように見える。ずぼんぼは獅子を、舞い踊らせる囃子言葉だったといわれる。

かい 甲斐の福龍 | 16



山梨県甲斐市

龍神が神々に湖を明け渡し、人々が住める土地にしたという旧竜王町の故事にちなむ。

鯨車 | 17



高知県高知市

鯨が水中を泳ぐ姿を木彫りにしたもので、小さな車が4輪つく。

赤べこ | 18



福島県会津若松市

べこは牛のこと。赤は疱瘡除けの色で、重荷に耐えて壮健であるように願う子育ての縁起物。

円了コレクションの動物

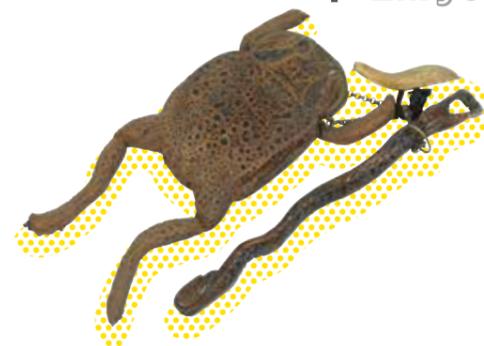
井上円了(1858-1919)は東洋大学の創始者で哲学者、妖怪博士としても知られる。明治から大正時代にかけて3回の世界旅行、人々への教育普及のための講演に日本各地を訪れた。900点以上におよぶ円了コレクションのうち、動物の姿、動物の骨や角・剥製品、貝製品などは約40点。最多動物はたぬきで、円了が創設した哲学堂公園には石造りの「狸灯」も立っている。



ペーパーナイフ

ノルウェー(明治44年)

トナカイの角製。トナカイが人間を乗せたソリをひく様子が彫られている。



煙草入れ(蛙・蛇・なめくじ)

日本

じゃんけんの三すくみの関係にある煙草入れ。
煙草葉入れ:蛙
煙管筒:蛇
緒締め:なめくじ



煙草入れ(かっぱと人面)

日本

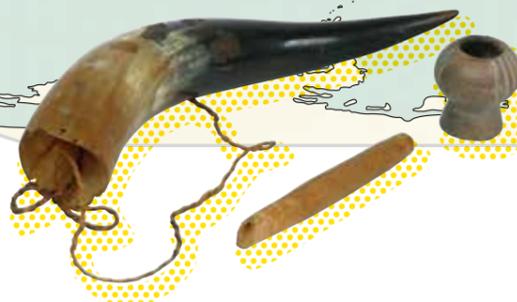
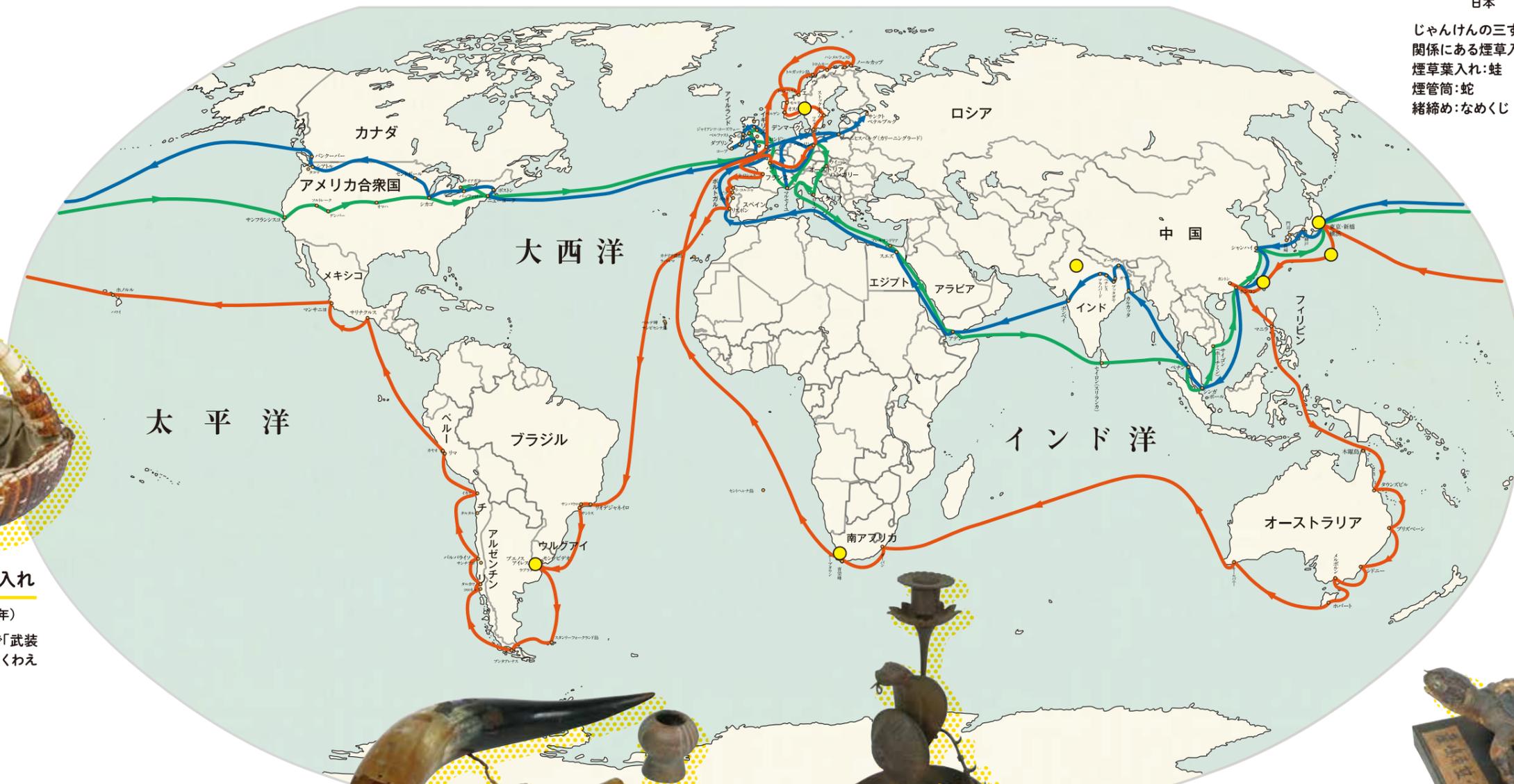
煙草葉入れ:人面
煙管筒:かっぱ
緒締め:大黒天風



アルマジロの小物入れ

アルゼンチン(明治44年)

アルマジロはスペイン語で「武装した者」の意味。口に尾をくわえたかごのような形。



南アフリカの喫煙具

南アフリカ(明治44年)

水牛の角製か。3度目の世界旅行で訪れた際、現地の人々が水牛の角をキセルにして喫煙する様子を円了は写真でみていた。



燭台(蛇)

インド(明治35年)

とぐろをまいたコブラの上に燭台がのる。



木彫魚

台湾(明治44年)



亀(剥製)

東京都小笠原村(明治43年)



世界旅行経路図

※ヨーロッパ内の細かい経路は省略
『井上円了・世界旅行記』(柏書房)の海外視察経路図を元に作成

- 第1回 明治21(1888)年 6月 9日~22年6月28日
- 第2回 明治35(1902)年 11月15日~36年7月27日
- 第3回 明治44(1911)年 4月 1日~45年1月22日

描かれる動物

当館の収蔵品は江戸時代中期から質屋・醤油醸造を営み、旧江古田村名主を務めた山崎家8代の歴史・美術・生活品を中核とする。著名な画家との交流から残された作品のほか、江戸から明治時代にかけて作られた「おもちゃ絵」と呼ばれる子ども向けの浮世絵も収集されている。人間を動物に見立てたもの、動物への恐れや信仰も見て取れる。



犬連美人図

好蛾(年代不明)

女性が連れているのはちん狎と思しき犬。狎は「小さい犬」に由来する呼び名で、これが縮まり狎となった。



枯木鳩図

谷文晁(年代不明)



龍札

作者不明(年代不明)

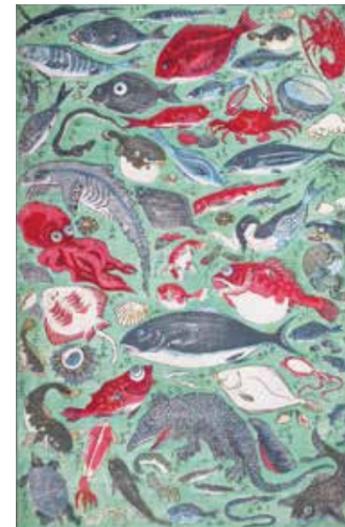
防火と盗み除けに描かれた龍。



けだもの志よ職尽し

作者不明
(明治時代)

職人の姿を動物に変えて描いたもの。



志ん板魚つくし

四代目歌川国政
(明治時代)

現在の魚介類図鑑とでもいうべきもの。人魚やカッパも入り交じる。



大日本物産図会

三代目歌川広重
(明治10年前後)

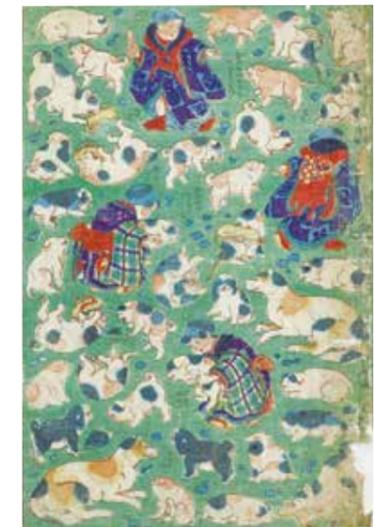
5枚連作のうちの1枚。上段:厳島神社で餌を求める猿と鹿。下段:広島の牡蠣養殖の様子。



東京名所三十六戲撰
鉄砲洲

昇齊一景
(明治5年3月)

猫が落としたらしき植木鉢が通行人に命中。犬もそれを見て笑っている?



□□両面合(犬)

歌川芳藤か
(明治元年8月)



絵の手本

河鍋暁斎(明治14年7月)

イタチに狙われたニワトリが威嚇する一瞬をとらえたもの。